

# 世界の国際環境

## ～世界の差異は縮まっているのか～

1130440 北村 直人  
高知工科大学マネジメント学部

### 1.はじめに

現在、世界は、文化的、政治的、宗教的などさまざまな立場の背景から、西洋、東洋を始め、世界中にはさまざまな差異、違いが存在している。

本研究では、その差異を、アメリカのジャーナリスト、トーマス・フリードマン氏が考える世界はフラット（平等）であるという、「フラット化する世界」、ハーバード・ビジネススクールの教授、パンカジ・ゲマワット氏が考える世界にはまだまだ違い（差異）が残っているという、「コークの味は国ごとに違うべきか」という二つの異なる意見を考察し、これからの世界では、国家、企業、そして個人がどのような戦略を立てていく必要があるのか、（セミ）グローバル化の在り方について論じる。

### 2.背景

トーマス・フリードマン氏曰く、今現在の世界は、通信回線の発達や、インターネットの爆発的普及、インドや中国といった国の経済成長により、世界の経済、環境は一体化し、だれしもが同等レベルの状態競争に参加をすることができるようになった。

このように、世界はフラット化したとフリードマンが宣言し、世界単位でのグローバルベースでビジネスが展開されているというのが、今の世の中の常識になりつつある。しかし、パンカジ・ゲマワット氏は、世界はフラット化しつつあるが、まだまだ至るところに差異は存在しており、世界を一つの市場と見るのではなく国ごとの差異に着目して、企業のグローバル戦略を説いている。

### 3.研究の目的

本研究は、トーマス・フリードマン氏と、パンカジ・ゲマワット氏の視点の違う両者の意見を比較し、グローバル化についての理解を深める。

### 4.研究方法

本研究の元となる、トーマス・フリードマン氏の「フラットな世界」、パンカジ・ゲマワット氏の「コークの味は国ごとに違うべきか」の二つの書籍を元に、世界中には差異は存在するのか、これからの世界を国家、企業、個人がどのような戦略を持って立ち向かっていけばよいのかということ、を、明確にしていく。

### 5.世界の差異のゆくえ

#### 5.1 世界はフラットである

世界は、10の大きな政治的イベント、イノベーションといった要素の収束によってフラット化された。

1.ベルリンの壁崩壊と、創造性の新時代

2.インターネットの普及と、接続の新時代

3.共同作業を可能にした新しいソフトウェア

4.コミュニケーションの力を利用する

5.Y2K とインドの目覚め

6.中国の WTO 加盟

7.ウォルマートはなぜ強いのか？

8.UPS の新しいビジネス

9.知りたいことはグーグルに聞け

10.新テクノロジーがさらに加速する。

フラット化によって、企業は安い労働力を求めてばかりだとは限らない。企業は安い賃金で、生産性の高い能力を求める。なので、インフラ、環境、教育、統治といった4つの基礎がなければ、企業を引き寄せる国、労働力にはなりえない。

#### 5.2 世界には差異がある

グローバル化は進んで、国ごとの差異は縮まっているが、まだま

だ大きな差異が残っているセミ・グローバリゼーションな状態。国ごとの差異は大まかに、

文化的 (Cultural)  
言語、価値観、宗教、民族、気質などの違い

制度的(Administrative)  
法律、政策、政治的背景からできた制度などの違い

地理的 (Geographical)  
距離、国境が接しているか、時差、気候、通信インフラなどの違い

経済的 (Economic)  
購買力、労働コスト、資本の規模などの違い

という以上4つの「CAGEの枠組み」という観点からモデル化している。

	文化的な隔たり	制度的な隔たり	地理的な隔たり	経済的な隔たり
	異なる言語	植民地関係がない	物理的な隔たり	貧富の差
	民族の差異、	共通の通貨がない	国境を接していない	天然、経済、人的
国と国とのペア (二か国間)	接点がない	政治的な対立	時差	資源、インフラ、
	宗教の差異	共通の地域貿易	気候や衛生状態	情報、知識を
	信頼の欠如	ブロックがない		得る費用や質
	異なる価値観			
	閉鎖的思考	市場の不在あるいは	陸地に囲まれていること	経済規模
国 (一国または 多国間)	伝統主義	は閉鎖的経済	国内での移動のむずかしさ	一人当たりの
		国際機関に非加盟	地理的規模	所得が低いこと
		脆弱な制度、汚職		

図3 国レベルでの CAGE の枠組み

グローバリゼーションは「価値」に着目して「ADDING 価値スコアカード」の六つの構成要素の観点から分析するのが有効

A:販売数量/伸び率の向上

企業全体で見た場合の販売数量の伸び率は向上するのか？

D:コストの削減

コストにかかる費用を下げることはできるのか？

D:差別化

相手企業との差別化を図ることができるのか？

I:業界の魅力と交渉力の向上

自社の交渉力を向上させることができるのか？

N:リスク標準化

企業の死すリスクを最適に行うことができるのか？

G:知識その他の経営資源と能力の開発

自分の持つ資源や能力を十分に発揮することができるのか？

グローバル戦略を行う際には、以下の三つの「AAA 戦略」という三つのオプションを利用して、戦略を立てていくことが望ましい。

- ・適応戦略 国ごとにある差異、隔たりに順応する。
- ・集約戦略 国ごとの差異で、その隔たりを部分的に克服する
- ・裁定戦略 国ごとの差異を調整、または克服すべき制約として捉えるのではなく、それを活用する

## 6.まとめ・課題

両者それぞれ違う視点で世界のゆくえを考えており、グローバル化への関わり方も異なる。確かに現在の世の中は、インターネット、通信回線の普及などにより、世界はフラット、平等になりつつある。いや、もうフラットになっている所は多いだろう。大切なことは、現在の世の中はフラットな世の中になっている、なりつつあるということをしつかりと踏まえたうえで、国ごとにある「差異」を効率よく生かし、国ごと、企業レベルで成長していけるだけの戦略を立てていくことが、これから先の世界を生き残るために必要な能力と同時に、課題となるだろう。

## 7.参考文献

- [1] 「フラット化する世界 (上) (下)」、トーマス・フリードマン、日本経済新聞社
- [2] 「コークの味は国ごとに違うべきか」、パンガシ・ゲマワット
- [3] 「独り言」54～58 「フラット化する世界」  
<http://www.geocities.jp/yamamrhr/ProIKE0123.html>
- [4] 「私的 本まとめ」フラット化する世界 (上)  
<http://book-review.hatenablog.com/entry/2012/10/18/061234>
- [5] 「八木博のシリコンバレービジネスブログ」  
<http://www.imanetinc.com/blog/2008/01/01t.html>
- [6] 野田祐機「to getter にまとめきれなかった、グローバリゼーションの本質」  
<http://learnbydoing.jp/2012/01/26/globalization/>
- [7] グローバル人材育成。戦略人事のユニバーサル・ブレインズ。事業の「グローバル化」の進展段階  
<http://www.universal-brains-group.com/article/13977488.html>
- [8] 開国屋 「コークの味は国ごとに違うべきか」  
<http://ameblo.jp/hide118jp/entry-10911356255.html>

